

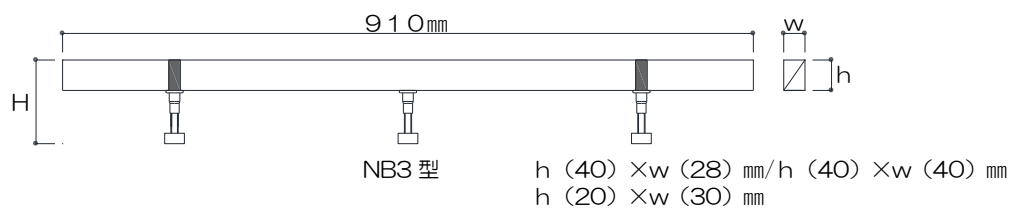
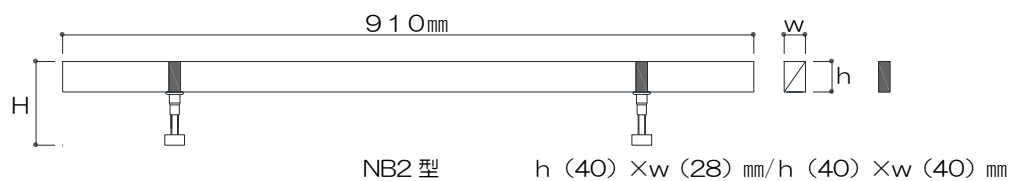
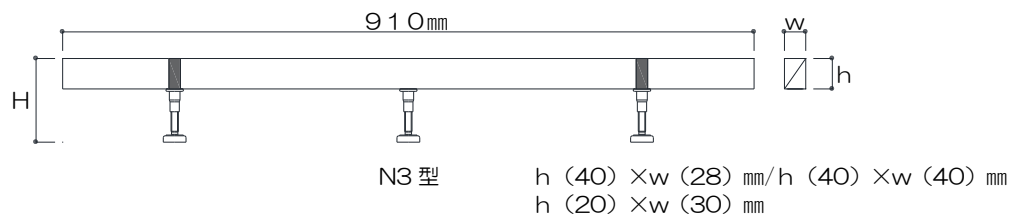
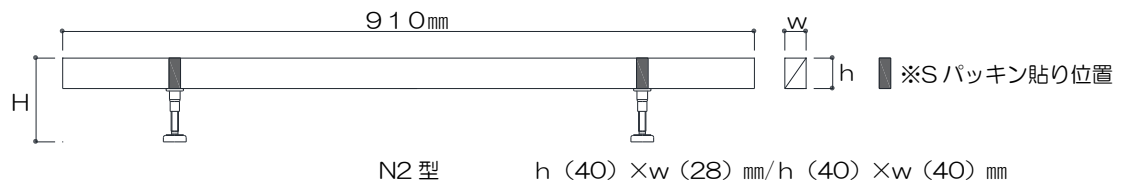
万協フロー システムネダ・防振システムネダ施工要領書

1.はじめに

このたびは弊社製品をご採用いただきありがとうございます。
 製品の特徴を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために本書をよく読み、
 正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

2. 製品仕様

①外観



②接着剤

中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使⽤します。
冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

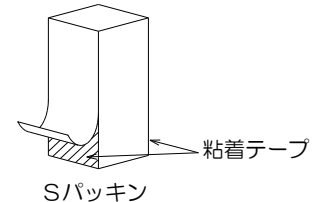
注意 万協フローア指定の接着剤をご使⽤ください。



注意 接着剤のラベルに書かれている注意事項をよく読んでご使⽤ください。

③クッション材（ネダ材と同梱）

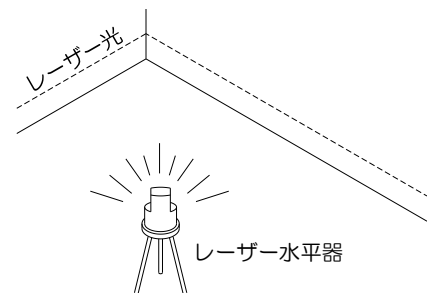
Sパッキン（ポリエチレン発泡体）サイズ：15×15×40mm
システムネダ 1本につき2箇所使⽤します（支持ボルトが3本の
場合も同様です）。



3. 施⼯手順

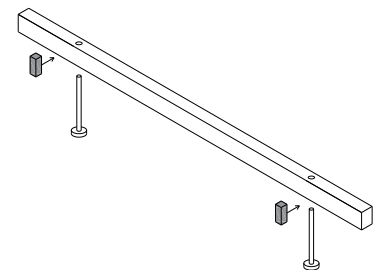
①墨だし

レーザー水平器を設置し、壁にレーザーをあてます。レーザーは、（防振）システムネダを設置する高さに合わせます。



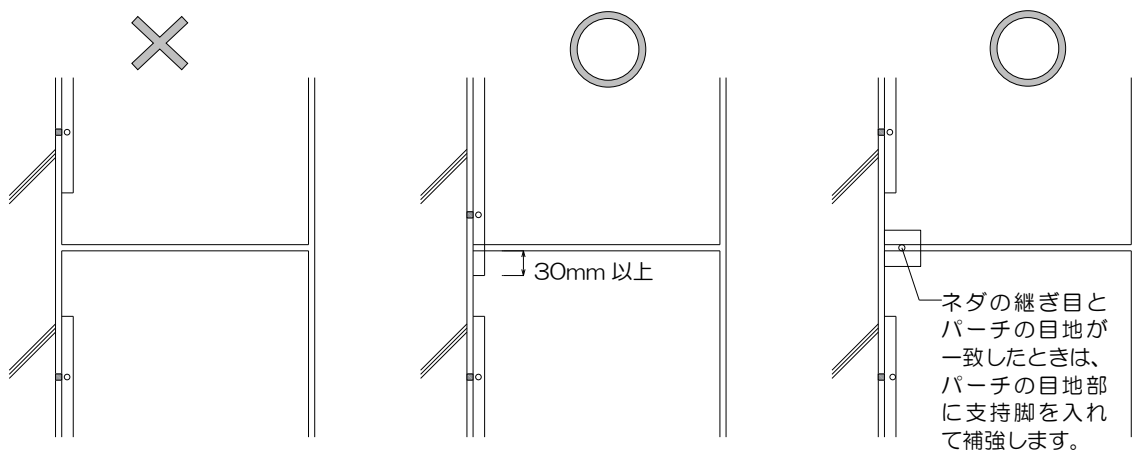
②システムネダの組立

- クッション材の剥離紙を剥がし、ネダに貼り付ける。
（2箇所：穴の横⾯）
- ネダ材にボルトを取付ける（ナットを下に）。

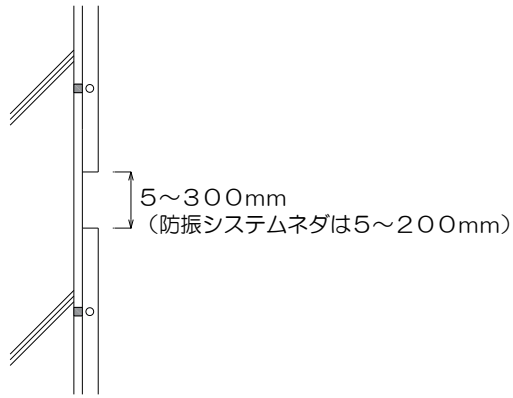


③仮配置および配置上の注意

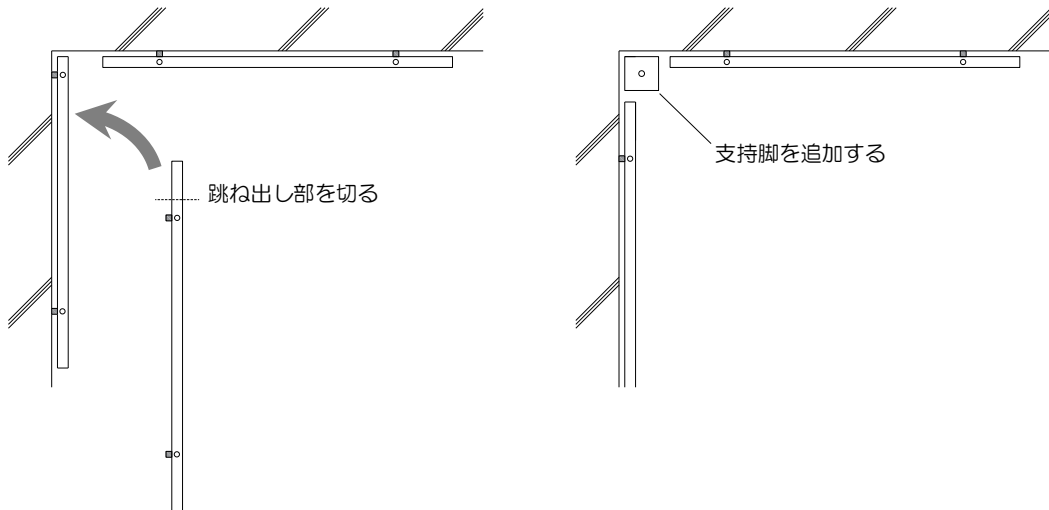
【A】パーティクルボード（以下、パーティとする）の割付けを考慮し、ネダのジョイントとパーティの目地が一致しないように注意し、必要に応じて跳ね出し部をカットしてください。パーティへのネダへの掛かりは30mm以上してください。



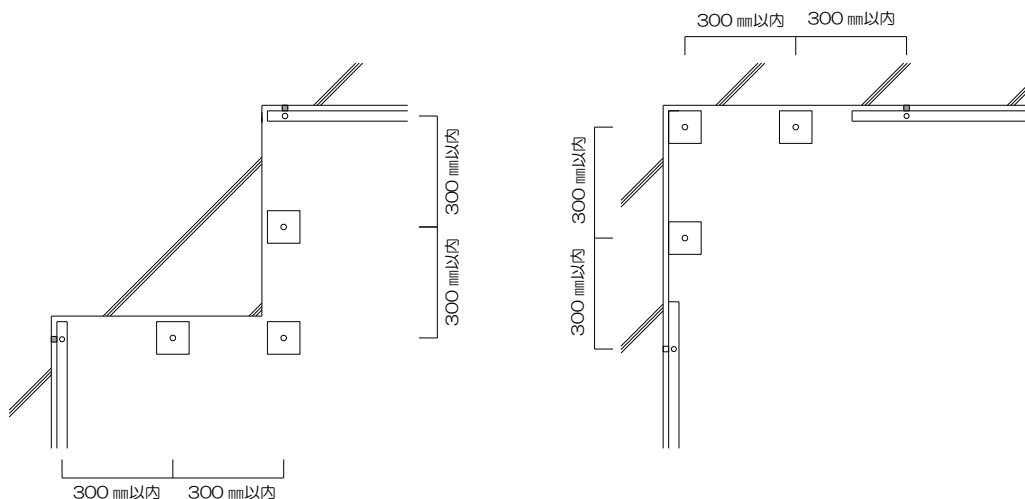
【B】ネダとネダの継ぎ目は、5～300mm（防振システムネダは5～200mm）としてください。



【C】入隅は両方向の跳ね出しにならないよう、一方のネダの跳ね出し部を切り取るか、支持脚受けとしてください。ネダの跳ね出し部を切る場合、端部から100mm以上切らないで下さい。

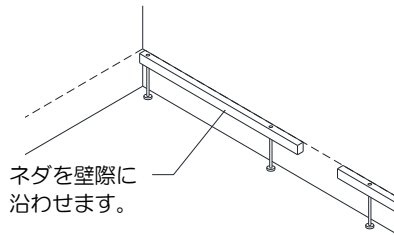


【D】設備配管との取り合い部、出入り隅部、狭小部等でネダの施工ができない箇所は、支持脚受けとします。ネダと支持脚の脚(支持ボルト)の間隔は300mm以下としてください。支持脚受けの場合、支持脚の間隔は300mm以下としてください。その際、防振システムネダ施工範囲はNP型支持脚、システムネダ施工範囲はWP型支持脚としてください。

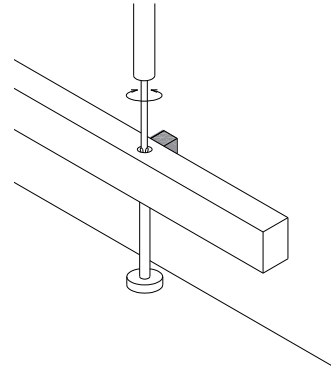
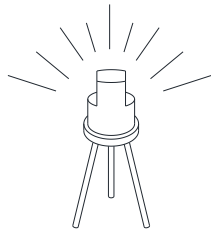


④レベル調整

壁側の剥離紙をはがさずに、ネダを壁ぎわに沿わせ、ボルトをプラスドライバーで廻し、高さを調整します（仮調整）。このとき、ネダが傾かないように注意してください。



壁際にウレタンの吹き付けがある場合は、最小限を取り除いてください。

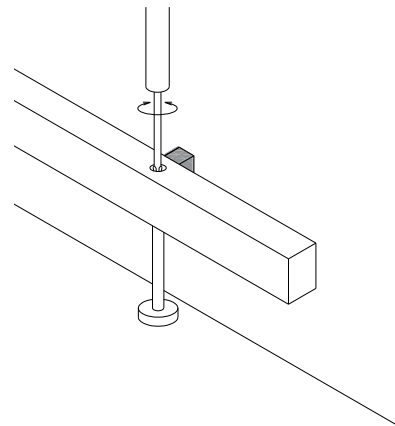
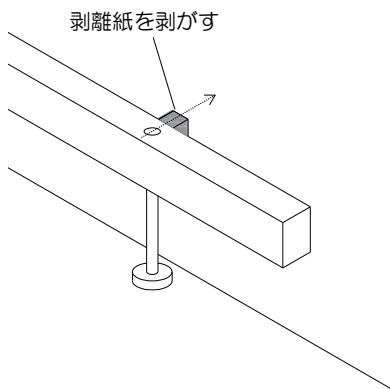


注意 製造工程上、ボルト頭部の十字溝に一部変形が見られるものがありますが、不良品ではありません。

注意 インパクトドライバーや電動工具等でレベル調整を行うと、過度な負荷がかかり、ネジ山がつぶれる恐れがありますのでご注意ください。

⑤壁への取付け

壁側の剥離紙を剥がして壁に押し付け固定します。再度、プラスドライバーでレベルの微調整を行います。



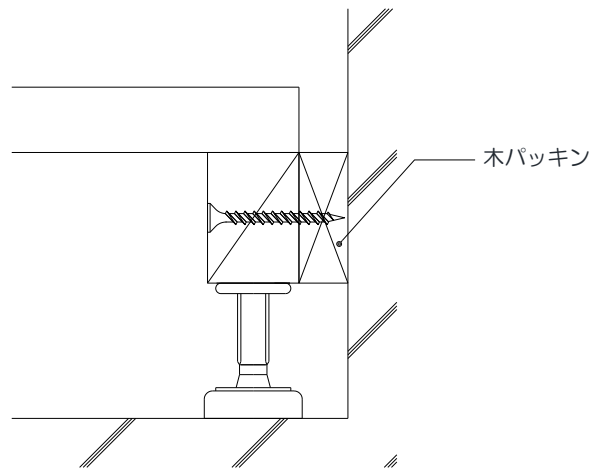
《遮音性能が求められない場合》

伸縮対策としてシステムネダのネダ材を躯体に固定します。

まず、木パッキンを接着剤で躯体に取り付けます。

次に、システムネダのレベル調整後、パッキン材を介してネダ材をビスで躯体に固定します。

注意 ネダ材の幅よりも支持脚防振ゴムが大きい場合、必ずパッキン材を用います。



⑥接着剤の注入

レベル調整後、接着剤を注入し、ボルトとナット、防振ゴムとスラブを固定します。

このとき、クッション材に接着剤を付けないように注意してください。

接着剤注入量の目安は以下のとおりです。

注入量： 3ml	注入量： 5ml
[品番] N3 - 40 ~ 60 NB3 - 40 ~ 60 N2 - 75 ~ 215 NB2 - 70 ~ 215	[品番] N2 - 230 ~ 650 NB2 - 230 ~ 650
注入量： 7ml	
[品番] N2 - 710 ~ 1070 NB2 - 710 ~ 1070	

注意 ゴムの周囲に接着剤が出ていることを確認します。

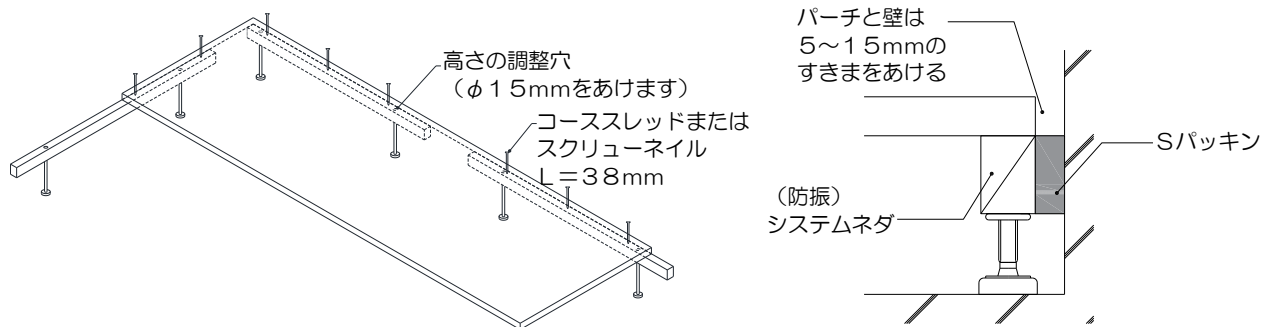
注意 上記注入量とN3型、NB3型の注入量は共通です。

⑦完成

■パーチに（防振）システムネダを取り付けてから施工する方法

（防振）システムネダの施工には、パーチに（防振）システムネダを取り付けてから施工する方法もあります。

パーチに（防振）システムネダの高さ調整用穴（約 $\phi 15\text{mm}$ ）をあけます。
次に、（防振）システムネダをパーチにビスまたは釘で固定します。



（防振）システムネダは、パーチを張りながら取り付けていきます。ネダの配置、レベル調整、接着剤の注入等は、壁に（防振）システムネダを取り付ける方法と同様に注意事項を考慮して行ってください。

「仕様は予告なく変更することがあります。」